

鎌倉市

公共施設の再編について

鎌倉市では、現在、公共施設の老朽化が進み、今後集中して必要となる施設の建て替えや改修などに係る多額の費用確保が課題となっています。
今ある公共施設を残す、さらに充実させるのではなく、機能を維持していくために複合化や集約化などの「公共施設の再編」に向けた取組を進めています。
市民の皆さま一人ひとりが課題について考え、「世界に誇れる持続可能な鎌倉」という財産を子どもたちに残していきたいです。

「由比ガ浜子どもセンター」複合化の事例

- 4つの施設を複合化
(材木座保育園、稲瀬川保育園、子育て支援センター、障害児通所支援施設)
- 津波避難機能も備えた施設として整備しました。

【事業概要】

- 平成29年度（2017年度）開設



地域の子育てを
広くサポートする
施設です



「市営住宅」集約化の事例

- 6つの市営住宅を1か所に集約化（A～E棟の全5棟）
(深沢住宅、笛田住宅、梶原住宅、植木住宅、岡本住宅)
- 民間事業者のノウハウを活用して、整備を進めています。

【事業概要】

- 令和3年度（2021年度）事業契約
- 令和6年度（2024年度）
- 令和6年度（2024年度）事業契約
第1期事業としてA棟のみ供用
開始予定



こんな取組を
進めています



※整備イメージ

公共施設を取り巻く現状・課題

課題1：公共施設の老朽化

昭和の高度経済成長や人口増加に合わせて建設してきた公共施設の老朽化が進み、築30年以上の公共施設が約75%を占め、建て替えや改修が必要な状況となっています。



課題

課題2：変化する人口

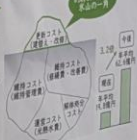
約40年後、鎌倉市の総人口は推計で13.4万人に減少、高齢者の割合は市全体の約4割となり、少子高齢化の更なる進行が予想されます。



課題

課題3：更新などに係る多額のコスト

現在の公共施設も今と同じように建て替えや改修で更新し続けた場合、令和35年度（2053年度）までに約2,500億円（年平均62.6億円）が必要になると試算しています。また、更新コストだけでなく、維持コストなどが必要となります。



課題

現状の3.2倍となる多額の更新コスト(62.6億円/年)を賄う必要があります。

- ① ニーズに合わず、利用できない、利用されない施設が出てくる
- ② 建て替えや修繕が追い付かず、施設機能が低下、費用も増大化
- ③ バリアフリーや省エネなどに対応できない
- ④ 更新コストなどの増大や人口減少に伴い、市民1人当たりの費用負担が増える

課題解決に向けて

現状、課題を踏まえ、全ての公共施設を維持・改善することは困難です。そのため、「必要な施設を残しつつ、必要に応じて更新・改修を行い、機能を維持・向上させる」という方針のもと、市民の皆さまと一緒に、持続可能な公共施設の実現を目指しています。

こんな方法で実現を目指しています！

